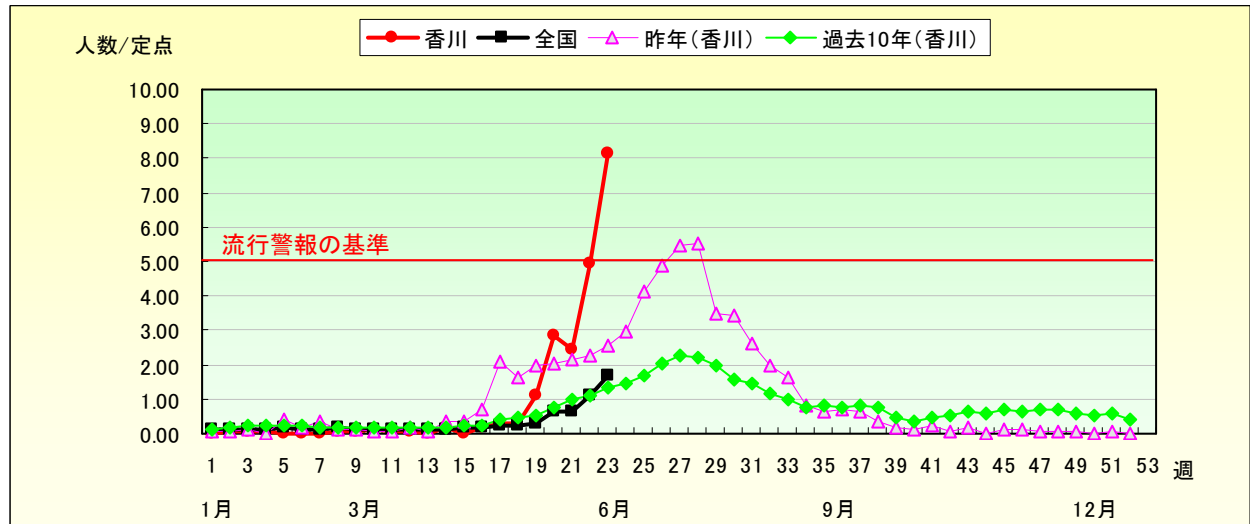


手足口病に気をつけましょう！

手足口病は、夏に流行する感染症です。香川県では今年、例年よりも早く、大きく増加しています。しっかりと手洗いをするなど感染防止に努めましょう。



○ 手足口病とはどのような病気ですか？

口の中や、手足などに水疱性の発疹が出る、ウイルスの感染によって起こる感染症です。子どもを中心に、主に夏季に流行します。病気の原因となるウイルスは、主にコクサッキーウイルスA16やエンテロウイルス71です。

○ どのようにして感染するのですか？

せきやくしゃみなどによる飛沫感染 や、接触感染、便の中に排泄されたウイルスが手などを介して口の中に入り感染する糞口感染 が知られています。

○ どのような症状が出ますか？

感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに2～3mmの水疱性発疹が出ます。発熱は約3分の1に見られますが、あまり高くないことがほとんどであり、高熱が続くことは通常はありません。ほとんどの方は、数日間のうちに治る病気です。

しかし、まれですが、髄膜炎・小脳失調症・脳炎などの中枢神経系の合併症のほか、心筋炎などさまざまな症状が出て、重症化することがあります。

子どもの様子をよく観察し、高熱が出る・発熱が3日以上続く・激しい頭痛・おう吐する・水分が取れずにおしっこがでない・ぐったりしているなどの症状がみられた場合は、できるだけ早く医療機関を受診しましょう。なお、保育所の登園などについては、主治医と相談してください。

予防のポイント

- ☆ 石けんと流水でしっかりと手洗いをして、タオルの共用は避けましょう。
- ☆ 症状がなくなっても4週間程度、便の中にウイルスが排出されますので注意しましょう。

